るも、亦振はざるものゝ如し。飲料水は何れも雨水を用ゆ。人情は淳朴、風俗隨うて質素なり。予此の地に宿泊せし翌朝、常の如く起出でんとして、激しき頭痛を覺へ、次で眩暈卒倒せんとし一時人事不省の境に陷りしも、土人が齎らせし酸水に依り。纔に蘇生するを得たり。蓋し酸水とは白菜を熱湯に浸し少量の鹽を加へたるものなりと。之を嚥下する少時、漸次回復し來るや、更に土人の勸むる梨（凍梨にして一見腐敗せしもの如く其の味少しく酸）を食して日光を浴する數時、顏色其他舊に復するも獨り頭痛耳鳴は容易に癒えず、爲めに二日を休養し、七日の朝に及んで、頭痛全く止みたるも耳鳴尙ほ未だ止まざりき。

今其の病原を按ずるに、前夜寒冷の爲め、室內に炭火を熾んにし其儘寢に就きし故或は炭酸の毒に中りしならむ。然るに予と同室に寢ねし從僕は何等異狀なきを觀れば尙ほ他に原因の存する有るか、之を土人に聞くに、此地由來瘴氣ありと稱す。土人は之に感ずること少なしと雖も、旅客は往々中毒する者あり。此際彼の酸水凍梨は消毒の適藥なり云々。蓋し安定の地たる、四面高山を以て圍み、僅に小溪の北に通ずる有るに過ぎざるが故に、空氣の流通頗る不良、殊に四圍の山谷より